

平成28年度 企画展

公文書で見る 秋田の石油開発

～「石油王国秋田」誕生ものがたり～

開催期間

平成28年 8月27日(土)～9月27日(火)

10月29日(土)～11月28日(月)

(期間中の休館日 9月7日(水)、11月2日(水))

開場時間

午前10時～午後5時

会場

秋田県公文書館 2階 特別展示室

大正時代の豊川油田

(行啓記念事業一覧 (162102-00015))

秋田県公文書館

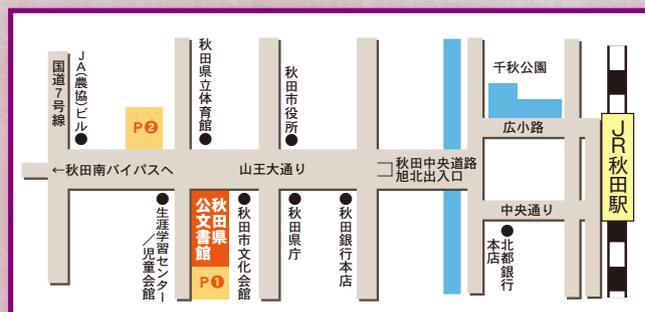
〒010-0952 秋田市山王新町14-31

電話 018(866)8301

FAX 018(866)8303

E-mail koubun@apl.pref.akita.jp

<http://www.pref.akita.lg.jp/kobunso/>



秋田県公文書館は、歴史資料として重要な公文書その他の記録を保存し、及び利用に供するため、公文書館法に基づく施設として平成5年に開館しました。

ごあいさつ

かつて秋田は、全国一の原油産出量を誇り、日本有数の製油所を複数抱える「石油王国」でした。今はその面影が少し残る程度で、県民の記憶からも次第に失われつつあります。

今春、八橋油田で久しぶりの掘削調査が実施されました。これを機会に、当館が所蔵する資料で秋田の石油開発の歴史を振り返ってみたいと思います。展示を通じて先人たちの業績に思いをはせ、記録を残し伝えていくことの意義を感じていただければ幸いです。

平成28年 8月

秋田県公文書館

石油開発前史

明治時代以前

秋田県内には石油が自然に湧き出している場所があり、土器や矢じりの接着、防腐防水塗料、油煙墨原料などに利用されてきました。

人面付環状注口土器（天然アスファルト全面塗装） 約3000年前



潟上市狐森遺跡出土 秋田県立博物館蔵 国指定重要文化財

秋田県立博物館展示案内 (09-0542)

石油開発の先駆者たち

明治時代初め

石油ランプが利用されるようになると、秋田県内でも、本格的な石油資源の開発に挑戦する実業家が現れました。

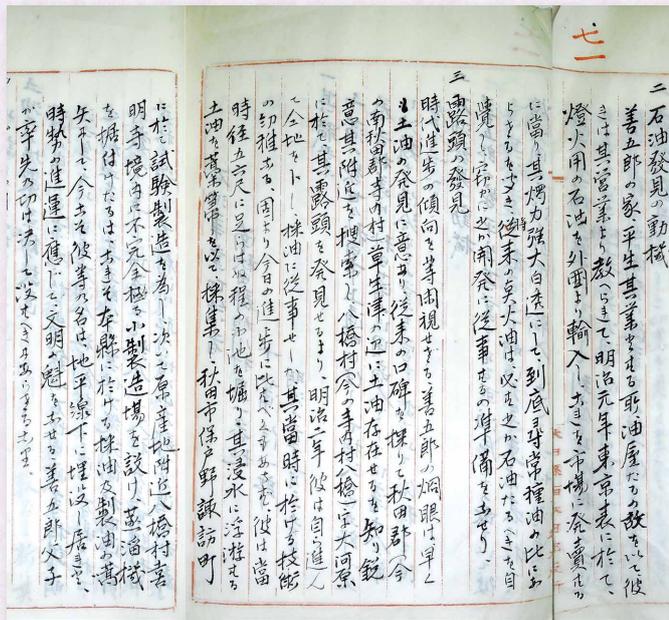
秋田油田開発のパイオニア

千 蒲 善五郎

文化14年(1817) - 明治22年(1889)

明治初期に石油を研究し、掘削、採油、精製、販売を手がけました。開発の失敗や火災に苦しみながらも石油に生涯をかけ、秋田油田開発の父と称えられます。千蒲の製油所は火災や悪臭から、周辺住民とたびたび対立し、移転を繰り返しました。

初期の八橋での採油の様子 明治時代はじめ



産業功績者調 (930103-07473)

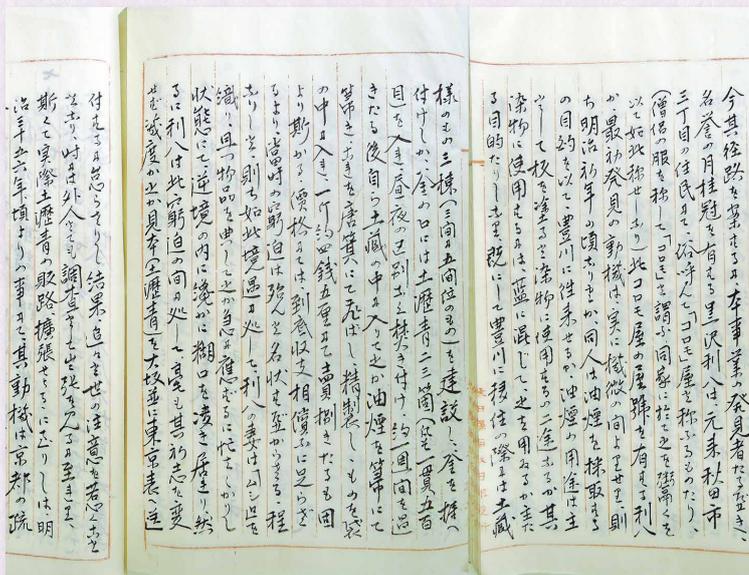
日本のアスファルト舗装のきっかけをつくった

黒 沢 利 八

天保11年(1840) - 大正9年(1920)

明治初期に土瀝青(天然アスファルト)の研究を行い、勸業博覧会出品を通して、日本のアスファルト舗装のきっかけを作りました。黒沢が出荷した秋田産の土瀝青が、日本最初のアスファルト舗装に使われました。

初期の土瀝青利用の様子 明治時代前半



産業功績者調 (930103-07473)

近代的な油田開発のあけぼの

明治時代中頃

秋田県は開発促進のため、先進地の新潟に技術研修職員を派遣しました。また、政財界設立の秋田石油調査会に協力しました。

石油調査生派遣

明治34年（1901）から2年間、石油調査生（技術研修職員）8名を新潟に派遣しました。

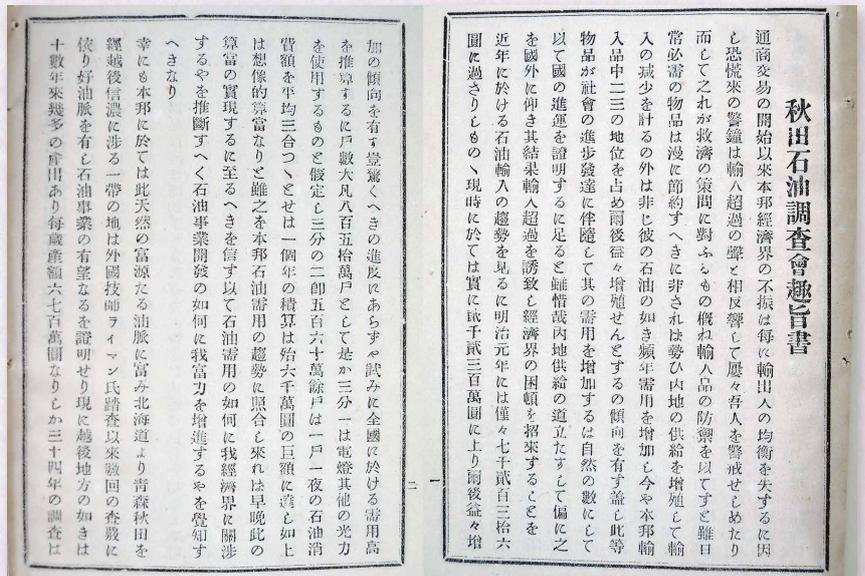
石油事業調査生心得
明治34年（1901）
第四課第壹係事務簿
(930103-08137)



秋田石油調査会

明治35年（1902）設立。秋田県は機械の無償貸与などで協力しました。

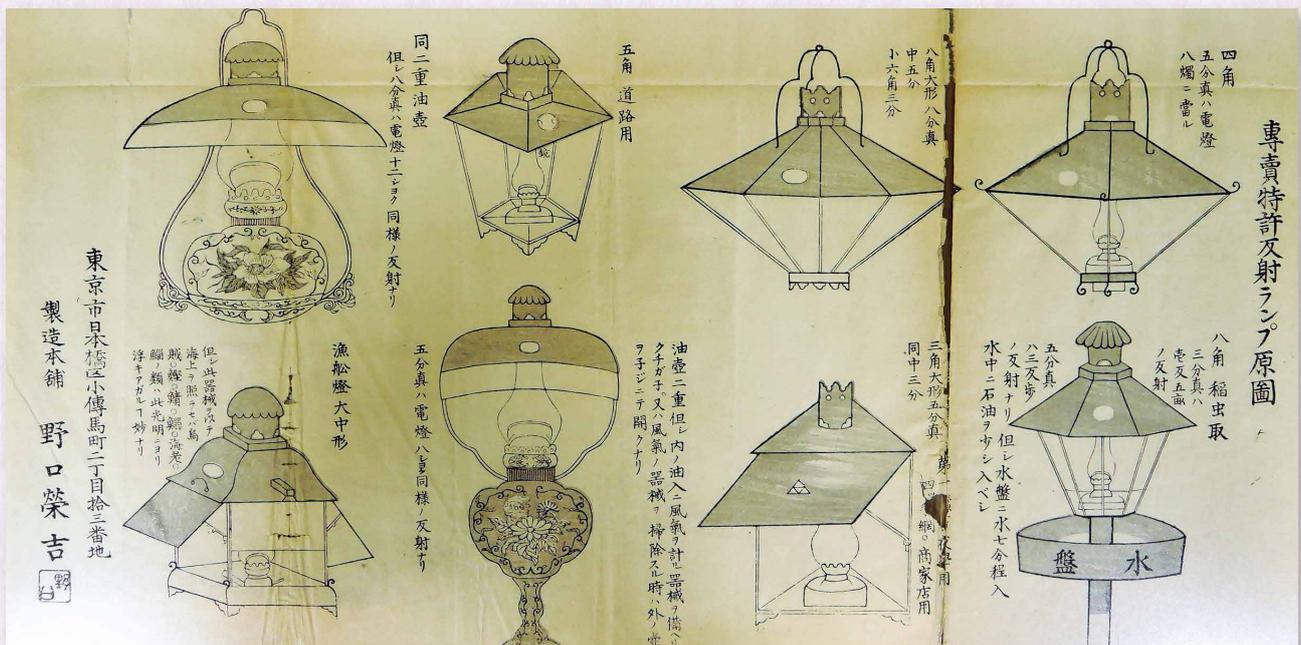
秋田石油調査会趣旨書
明治34年（1901）
石油機械貸与書類
(930103-08154)



最初は照明の燃料に、やがてエンジンの燃料や工業の原料に、石油が次第に利用されるようになっていきました。

石油ランプ

石油ランプ広告 明治27年 (1894)



第二、五課勸業掛事務簿 (930103-06993)

道路舗装 (アスファルト)

神宮外苑絵画館前アスファルト舗装工事 大正15年 (1926) 竣工



明治神宮外苑道路舗装工事

舗装材料は秋田産石油アスファルトを用ゐ、工法は特許ワレーナイトピチュリシツク式にして近代高級道路舗装法中最新最良のものなり。本邦に於ては當社が米國ワレーンブラザーズ會社より東洋に於ける同法の一手施行權を獲得し各地の道路舗装工事に優良なる結果を挙げつゝあり。

日本に現存する最古のアスファルト舗装として、平成16年度、日本土木学会選奨土木遺産に認定。

行啓記念事業一覧 (162102-00015)

油田開発の本格化

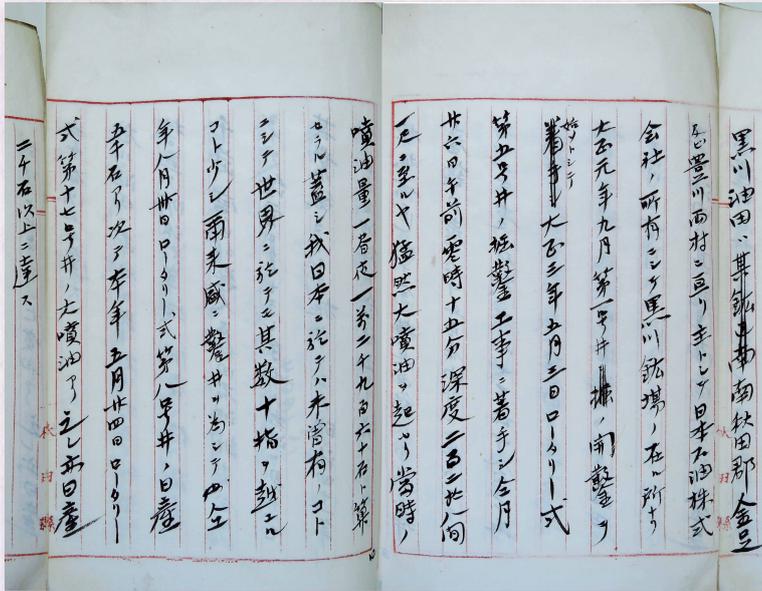
明治時代末～大正時代

県外の大企業が秋田県内に進出し、油田開発が本格化しました。大正時代後半、国産原油の4割以上は秋田県内で産出されました。

黒川油田の大噴油 大正3年(1914)



黒川油田の大噴油状況 大正3年(1914)

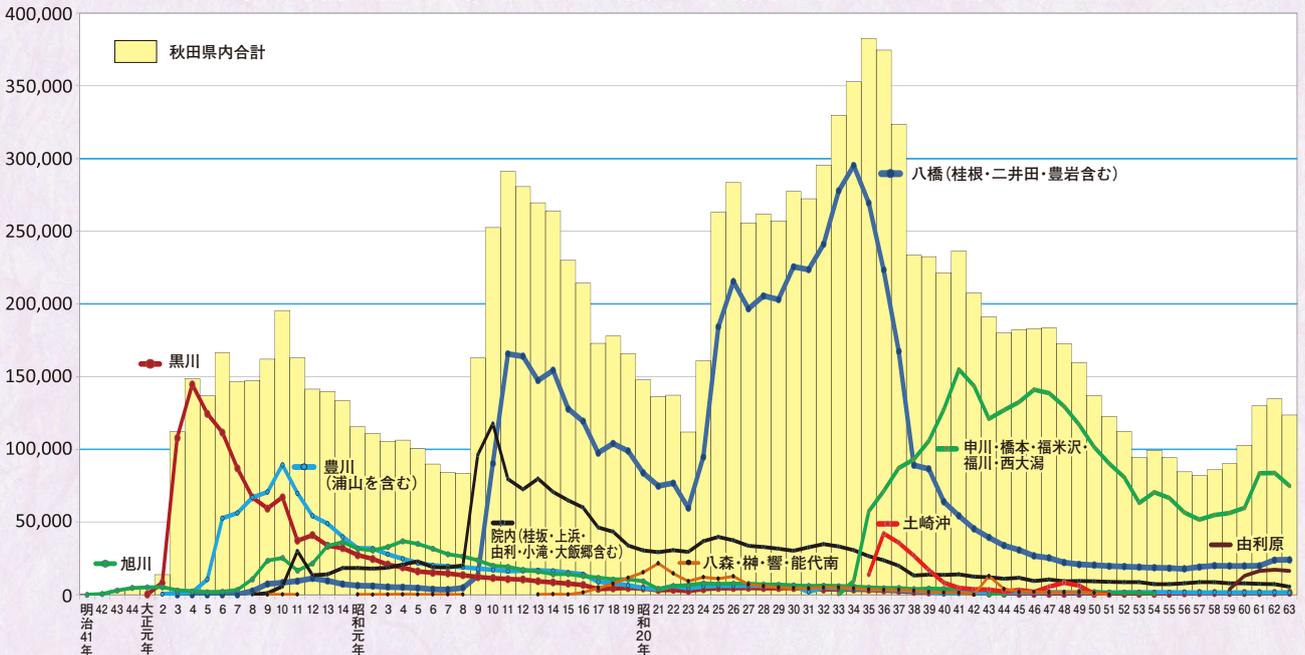


石油機械貸与書類 (930103-08154)

行啓記念事業一覧 (162102-00015)

(単位: キロリットル)

秋田県内の油田別原油産出量の推移 明治41年(1908)～昭和63年(1988)



秋田県鉱山誌(秋田県地下資源開発推進協議会、(財)秋田県鉱山会館 編 2005)、本邦鉱業のすう勢調査(経済産業省)より作成

戦時体制下の石油

昭和時代初め～終戦

石油確保が最重要の国策となり、油田が帝国石油に集められました。優良な製油所だけが、軍需工場として操業が許されました。

圧縮瓦斯及液化瓦斯製造事業譲渡許可申請書

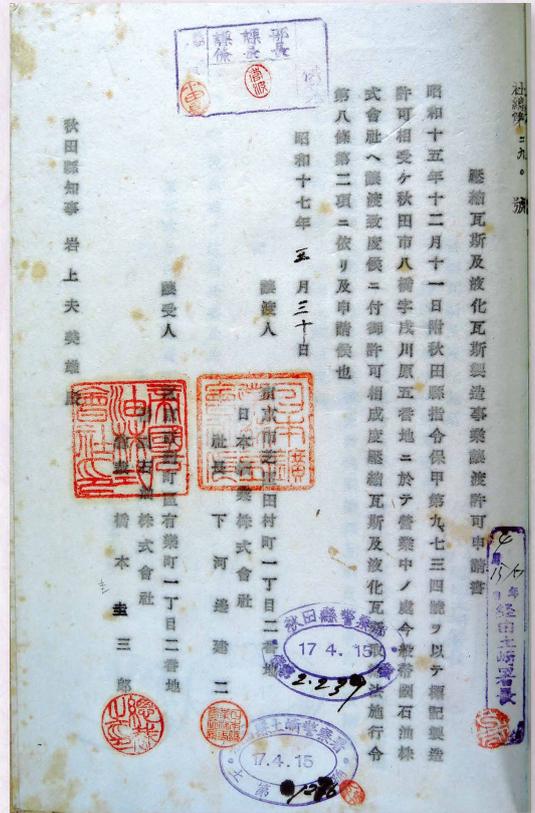
昭和17年(1942)3月

秋田鑿井技術工養成所設置ニ際シテ知事祝辞

昭和15年(1940)2月3日



式辞、其他綴 (930103-08754)



第一種製造許可関係綴 (930705-30015)

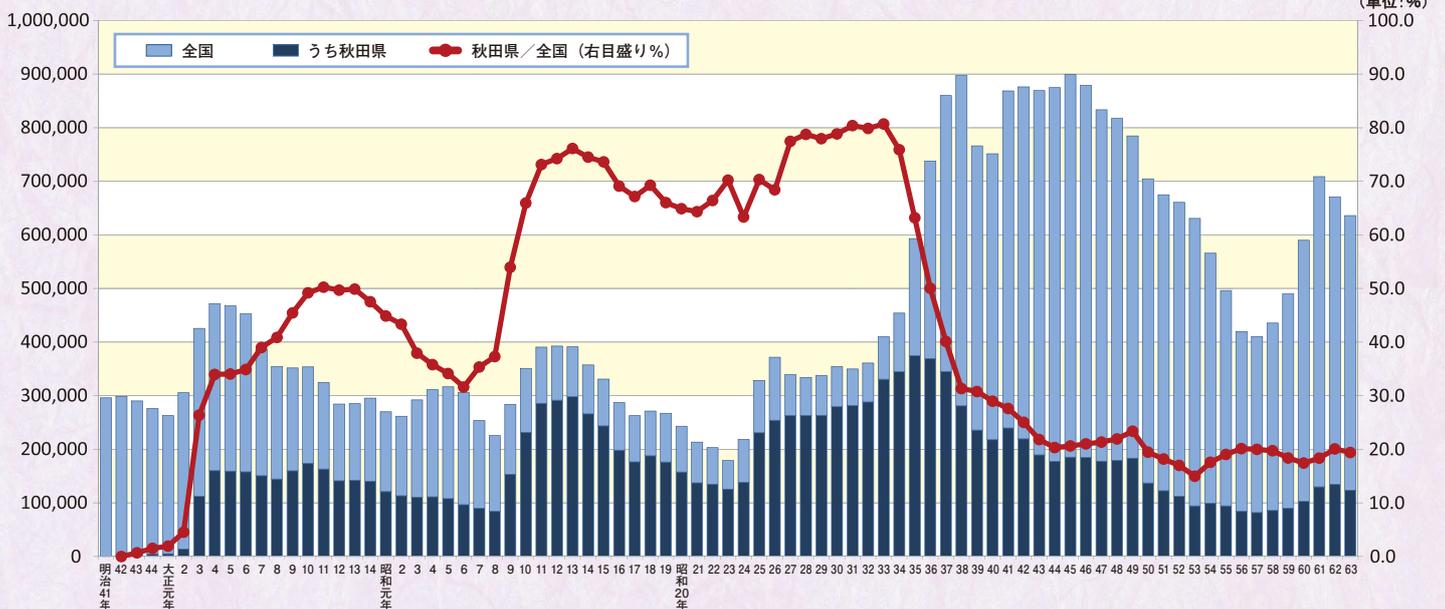
南方で働く石油技術者確保が急務になり、秋田市に養成施設が設置されました。昭和18年に帝国石油に移管されました。

昭和17年4月、油田が付属施設も含めて帝国石油に譲渡されました。

(単位:キロリットル)

日本の原油産出量の推移と秋田県の割合

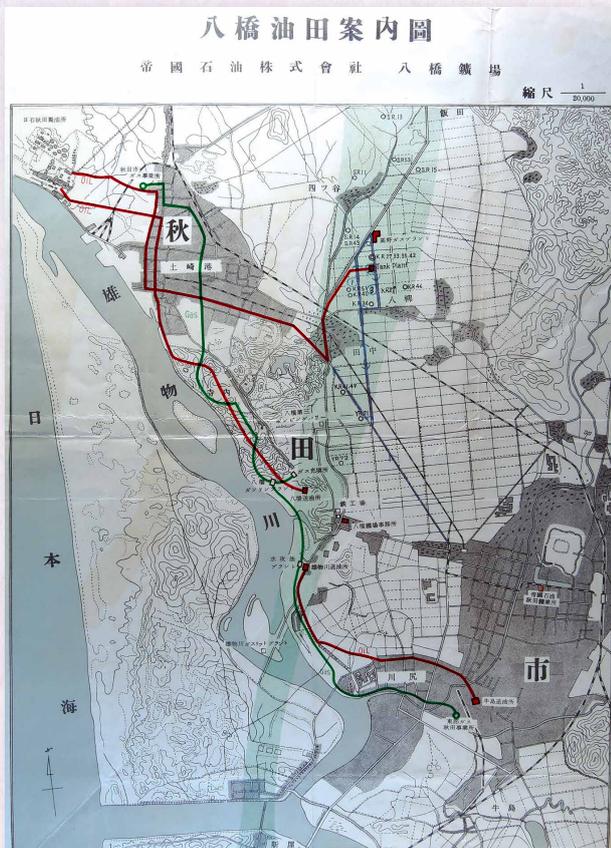
明治41年(1908)～昭和63年(1988)



本邦鉱業のすう勢調査(経済産業省)、秋田県鉱山誌(秋田県地下資源開発推進協議会、(財)秋田県鉱山会館 編 2005)より作成

「石油王国秋田」の誕生 終戦～高度経済成長期前半

八橋油田案内図 昭和28年（1953）



清宮内親王殿下御来県関係綴（930103-11991）

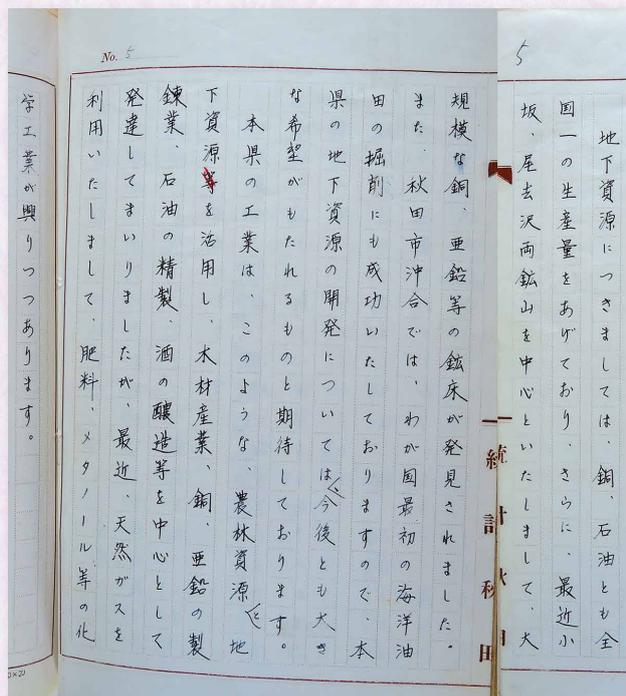
八橋油田が産出量で国内一位となり、秋田県内で国産原油の約8割を産出しました。日本の復興と高度経済成長をささえました。

最盛期の八橋油田 昭和30年（1955）頃

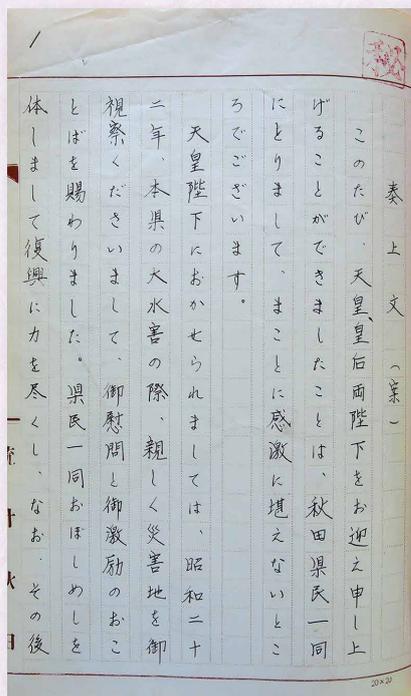


地方自治30周年記念伸びゆく秋田第一部（DVD-00230）

県概況奏上文（案）
昭和36年（1961）



奏上事務に関する原議綴
（930101-30119）

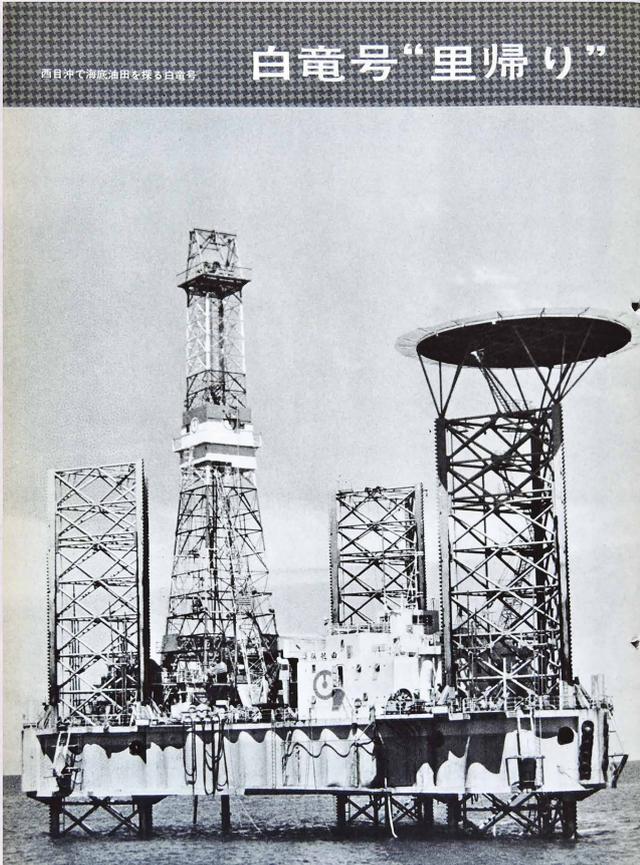


新たな石油資源開発と産業の育成

昭和時代後半

大陸棚の油田開発

停泊中の白竜号 昭和42年（1967）



あきた（県広報誌）（930103-50993）

白竜号は、当時わが国唯一の海底油田掘削装置でした。
秋田沖の油田発見は、開発技術の向上に貢献しました。

八橋油田が急激に減産し、それに代わる油田の開発と産業の育成が、秋田県の急務になりました。

新油田の開発

由利原試掘場 昭和59年（1984）



皇太子・同妃殿下啓記録写真（162102-00047）

国家石油備蓄基地計画

石油備蓄基地タンク工事と完成予想図（男鹿市）
平成元年（1989）



県勢写真帳あきた（93-183）

「新エネルギー立県秋田」の創造

現在

現在の秋田県は、石油資源に頼るだけでなく、国内最大の新エネルギー供給基地と関連産業の集積拠点を目指しています。

第2期 秋田県新エネルギー産業戦略

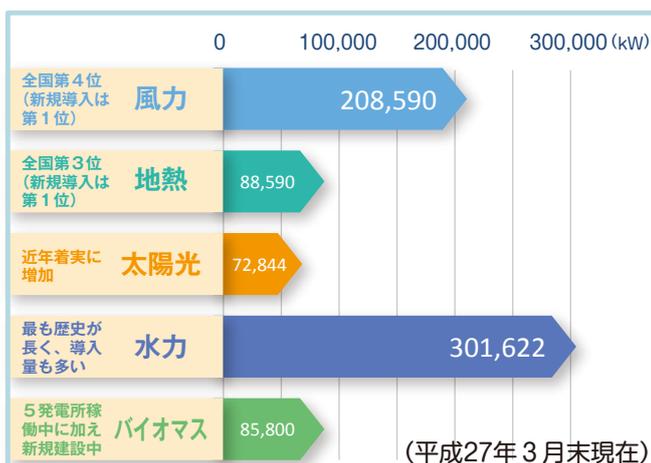
平成28～37年度

国内動向

- 新エネルギーの導入環境の整備（固定価格買取制度（H24年7月～）など）
- 長期エネルギー需給見通し策定（再生エネルギー割合 現状10%→2030年に22～24%）

県内の状況

- 多様で豊かな本県の再生可能エネルギー！
新規導入量は全国有数、洋上発電など計画進行中



- 関連産業に参入する県内企業が増加し県経済に波及

- ・発電施設の建設による土木・建物建築工事
→2～4割が県内に発注
- ・地熱、バイオマス発電所の保守管理業務
→8割が県内発注
- ・風力発電のメンテナンスによる雇用拡大
→県内従事者は延べ120人超

戦略の概要

目指す姿

国内最大級の新エネルギー供給基地と、関連産業集積基地の形成

3つの方向性

- 発電所の建設投資の促進
- 県内企業の参入促進で経済効果の最大化
- 将来を見据えた技術開発を含む取組

3つの政策分野

- 再生可能エネルギーの導入拡大
- 関連産業への県内企業参入拡大
- 水素エネルギーに関する取組推進

視点

- ・再生可能エネルギー発電は「本県ならではの」の特色を活かす産業
- ・建設投資とメンテナンスで長期の地場産業形成が可能

展示資料一覧

コーナー	資料内容	内容の年代	資料名	資料番号
石油開発前史	人面付環状注口土器	縄文時代	秋田県立博物館展示案内	09-0542
	秋田県立博物館展示案内	現代	秋田県立博物館展示案内	09-0542
石油開発の先駆者たち	初期の八橋での採油の様子	明治はじめ	産業功績者調	930103-07473
	石炭油製造所他方へ引移願	明治11年	第二課事務簿	930103-08261
	内国勸業博覧会土瀝青出品	明治10年	勸業課諸務掛事務簿	930103-07789
	初期の土瀝青利用の様子	明治時代前半	産業功績者調	930103-07473
	産業功績者調 (表紙)	明治43年	産業功績者調	930103-07473
	石炭油製造場引移ノ願 (提出文書の表紙)	明治11年	第二課事務簿	930103-08261
	第3回内国勸業博覧会土瀝青出品解説	明治22年	第一部農商課事務簿	930103-07842
近代的な油田開発のあけぼの	石油事業調査生心得	明治34年	第四課第壹係事務簿	930103-08137
	石油調査生願書	明治34年	第四課第壹係事務簿	930103-08137
	石油調査生による報告書	明治35年	石油調査会書類	930103-08152
	秋田石油調査会趣旨書	明治34年	石油機械貸与書類	930103-08154
	機械貸与の様子	明治36年	石油機械貸与書類	930103-08154
	石油調査生による報告書表紙	明治35年	石油調査会書類	930103-08152
	秋田石油調査会規約	明治35年	秋田石油調査会誌	930103-08153
	石油機械貸与書類 (表紙)	大正6年	石油機械貸与書類	930103-08154
油田開発の本格化	秋田県石油アスファルト鉱分布略図	明治44年	石油機械貸与書類	930103-08154
	日本石油が旭川油田に成果	明治41年	石油機械貸与書類	930103-08154
	黒川油田の大噴油	大正3年	行啓記念事業一覧	162102-00015
	黒川油田の大噴油状況	大正3年	石油機械貸与書類	930103-08154
	豊川油田跡	現代	潟上市市勢要覧2016	16-0162
戦時体制下の石油	圧縮瓦斯及液化瓦斯製造事業譲渡許可申請書	昭和17年	第一種製造許可関係綴	930705-30015
	秋田製油所平面図	昭和20年	第一種製造許可関係綴	930705-30014
	秋田鑿井技術工養成所設置二際シテ知事祝辞	昭和15年	式辞、其他綴	930103-08754
	戦時統制物資講座 (石油)	昭和14年	週報	930103-12581
	秋田製油所概況	昭和17年	徳川侍従御差遣関係書類	930103-11976
「石油王国秋田」の誕生	八橋油田案内図	昭和28年	清宮内親王殿下御来県関係綴	930103-11991
	最盛期の八橋油田	昭和30年頃	～地方自治30周年記念～ 伸びゆく秋田 (第一部)	DVD-00230
	県概況奏上文 (案)	昭和36年	奏上事務に関する原議綴	930101-30119
	事業概要 (帝国石油株式会社秋田鉱業所)	昭和34年	義宮正仁親王殿下御成り関係綴	930101-30129
	八橋油田採油管理系統図	昭和35年	義宮正仁親王殿下御成り関係綴	930101-30129
	船川製油所案内	昭和27年	高松宮殿下御来県関係書類綴	930103-11993
	船川製油所 (グラビア記事)	昭和41年	あきた (県広報誌)	930103-50992
新たな石油資源開発と産業の育成	白竜号の信号灯及び投光器配置図	昭和34年	白龍号漁業補償関係綴	930508-30022
	由利原試掘場	昭和59年	皇太子・同妃殿下行啓記録写真	162102-00047
	船川港湾計画平面図 (国家石油備蓄計画)	昭和57年	国家石油備蓄プロジェクトに係わる 船川港湾計画調査報告書	960205-00402
	停泊中の白竜号 (グラビア記事)	昭和42年	あきた (県広報誌)	930103-50993
	石油備蓄基地タンク工事と完成予想図	平成元年	県勢写真帳あきた	93-183
	秋田石油備蓄 (株) 設立総会知事祝辞	昭和57年	知事祝辞挨拶 57.3.11~57.3.31 50	010102-00050
石油の利用	石油ランプ広告	明治27年	第二、五課勸業掛事務簿	930103-06993
	自動車現在数	大正9年	自動車車輛調査	930103-08057
	ガソリン計量用ポンプ立面図 (横手)	昭和6年	内務部土木課事務簿	930103-06081
	「漁船改良補助規定」改正趣旨	大正14年	県令改廃書類	930103-07148
	小型発動機付き改良漁船 断面図	大正15年	漁船改良書類	930103-07214
	神宮外苑前アスファルト舗装工事	大正15年竣工	行啓記念事業一覧	162102-00015